

2026年の経済展望 ―「金利のある世界」の行方

富士通エグゼクティブアドバイザー、元日本銀行理事

はやかわひでお
早川英男

- *コロナ後、サービス業は改善し製造業は一進一退
- *トランプ関税の影響は思ったほどではなかった
- *先行きが読みにくくなったアメリカ経済
- *目立つドイツの不振、スペインの好調
- *13年から始まった異次元緩和の成果と限界
- *物価上昇と賃上げ機運の高まり
- *円安が続くさまざまな理由
- *植田日銀総裁の金融政策のポイント
- *金利のある世界になると厄介なのは財政
- *高市政権とマーケットの緊張関係



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は朝方から山手線、京浜東北線など大々的に止まり、このホールはガラガラになってしまわないかと危惧しておりましたが、皆さんお越しいただいてありがとうございます。無事到着されてよかったです。

年頭に当たりまして、先週、藤原先生に国際情勢についての展望を伺いました。今日は早川さんにお越しいただき、日本経済、世界経済も含めまして、「2026年の経済展望」ということをお願いいたしております。

ご存じのように日経平均は5万円を超えるフーパーぶり、金、銀、プラチナも上昇しています。年末に大型の補正予算を組んだこともありまして、長期金利は急上昇して、ドル円で

は160円に接近する事態になっております。

マーケットの反応は非常に激しく、補正予算等を見て怒っていることだと思います。実際、高市さんは自分自身の高い支持率を背景に一気に選挙に駒を振りまして、先日は公明党と立憲民主党が新党を結成する激しい展開になっています。政治については、はたしてどういう結果が出てくるのか、わからないような状況になっていると思います。

そうした中で経済の動向を正確に見つめていくことは非常に重要で、今日はその点についてしっかりと話をお話伺えると思います。

また、レジメを見てもおわかりのように、植田・日銀の金融政策や巨額の国債のロールオーバーなどについても触れていただけだと思っ